



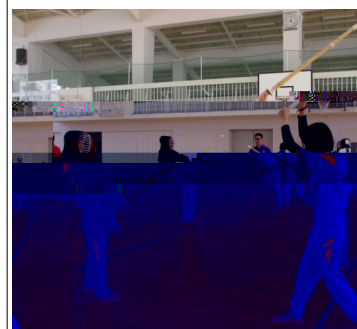
2月17日(月)～21日(金)の5日間、タイ王国のプリンセスチュラポーン・サイエンスハイスクール・ムクダハン校の生徒8名、引率教員3名が本校を訪れ、タイ訪日研修を実施しました。本校の高校1年、2年の希望者20名とともに、東広島市にある酒類総合研究所ならびに酒造会社での発酵・醸造をテーマとした研修、本校での生物・化学の共同授業、課題研究の相互評価を実施しました。

そして、最終日の21日(金)にムクダハン校の生徒が「SSHの日」に参加し、本校生徒とともに課題研究のポスター発表を行いました。

2月17日(月)	授業体験、茶道体験
2月18日(火)	開講式、授業体験、広島市内研修
2月19日(水)	酒類総合研究所・賀茂泉酒造(東広島市)での研修
2月20日(木)	科学共同授業(生物・化学)、課題研究の相互評価
2月21日(金)	「SSHの日」参加(課題研究の発表)、閉講式



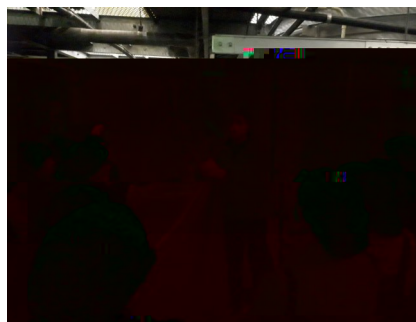
体験授業の様子(英語)



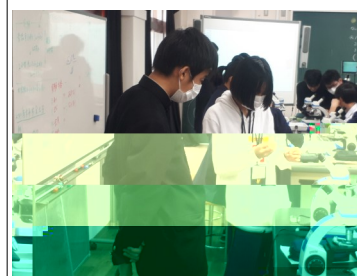
体験授業の様子(体育)



酒類総合研究所での記念写真



賀茂泉酒造での研修の様子



科学共同授業の様子(生物)

2月21日(金)に、SSHの日(日本・タイ・韓国の3カ国合同による課題研究成果発表会)を実施しました。日本からは、本校高校2年の生徒に加えて、広島県立西条農業高等学校の生徒6名、安田女子中学高等学校の生徒6名が参加し、課題研究のポスター発表を行いました。タイからは、ムクダハン校の生徒8名が参加し、韓国からは事情によりポスター掲示による参加となりました。

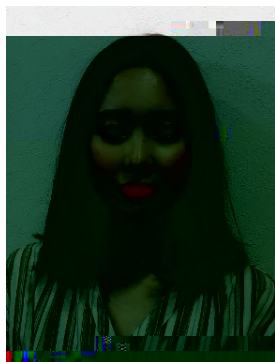
午前と午後で発表の時間を分けて全員がポスター発表を行うようにし、併せて相互評価も行いました。午前、本校高校1年の生徒、午後は、本校中学3年の生徒も発表を聞きました。本校卒業生の先輩や来賓の先生方からも質問が出され、指導と議論の時間になりました。必要に応じて、英語を用いました。質問から新たな気づきや今後の課題が出てきました。



ポスター発表の様子①



ポスター発表の様子②



河島美羽先輩

(SSHの日に指導助言者として参加された河島美羽先輩〔2018年3月卒業〕からメッセージをいただきました。)

皆さんの中には、今高校で学んでいることがどれだけ大学で通用するのか、気になっている人もいることでしょう。高校2年、3年のSSHのプログラムで科学研究の方法を学んでも、大学受験の筆記試験では生かせると思えないし……。これは、私が高校在学中に感じたことです。しかし大学に進学した後で、貴重な経験をしたことを実感することになりました。具体的に、次の3つを挙げたいと思います。

1つ目は「スピーチ力」です。大学では皆さんが想像している以上に人前でスピーチをする機会が増えます。そしてその出来がそのまま評価されて成績になります。高校のときに、日本語や英語で考えたことをまとめてスピーチする経験をして慣れと自信を持ち、大学進学後も難なく実践することができ、高い評価をいただくことができています。

2つ目は「レポート作成力」です。大学で課されるレポートは成績に直結します。限られた時間と字数制限の中で、自分の考えたこととその根拠を論理的に記述しなければ評価されません。普通に高校の授業を受けているのでは、磨かれない力であるように思います。高校生の時期にその訓練しておくことは、文系・理系を問わず、その後のアドバンテージになること間違いありません。

3つ目は「研究力」です。皆さんが大学で直面する卒業研究は、まさに課題研究の延長です。問いを設定すること自体、簡単なことではありません。途中で挫折しそうになることもあります。私は課題研究を通して、学び方を学んだように思います。思うような結果が出なかったときにどうするか、研究の意義をどこに見出すかは成果を出す以上に大切なように思います。また、他の人の発表を聞いて質問する力、他の人からの質問に対して正確に答える力も課題研究を通して学ぶことができました。

今皆さんは、この3つの力を身に着けているのです。課題研究の時間は、大学受験の勉強時間を削っているのではなく、近い将来の自分に投資している時間ともいえます。附属でしかできないことを、附属にいる間にすべてやってみてください。皆さんの可能性が必ず広がります。

2月15日(土)に高校2年ASコースの課題研究2グループ6名が、SSH事業の連携校である広島県立西条農業高等学校の研究成果発表会に参加しました。午前は、講演会やシンポジウムに参加し、午後は、課題研究のポスター発表を行いました。発表等の交流を通して、学校ごとに異なるプログラムの特徴や、発表に向けてどのように準備を進めているかを知ることができました。他校の取り組みを知ることで、改めて自分たちの取り組みを見直すことができました。

SSHの日を終えた私たちは、これから研究をさらに進めるとともに課題研究論文集の原稿を作成します。これまでにいただいた指導や助言を参考にして、よいものにしたいと考えています。

次号(最終号)では課題研究の成果や、失敗から学んだことを紹介します。

(担当:Ⅱ年3組AS委員)